

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500015		
法人名	社会福祉法人三養福祉会		
事業所名	グループホーム 檀原の郷		
所在地	奈良県橿原市飯高町7-1		
自己評価作成日	平成22年11月15日	評価結果市町村受理日	平成23年1月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・担当制を導入し、毎月のスタッフ会議にて、担当利用者様の報告と話し合っています。また、利用者様の状況変化に随時対応する為、ユニット別会議を開き、援助方法等を話し合っています。家族様には、来苑時や電話などで、利用者様の様子を伝え、信頼関係を築き、どんな事でも相談していただける様な環境を作っています。利用者様と共に出来る楽しみとして、庭に季節毎に花を植えたり、野菜を作り、収穫、ベンチの活用で日向ぼっこもしています。季節に応じてのドライブや地域のイベントにも積極的に参加し、社会との交流も図っています。主治医や看護師との連携を取り、往診などでもらう事で体調の安定を図り、認知症状の憎悪時は、専門医の受診もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街から少し離れた田園地帯に隣接して、特別養護老人ホームを中心とした建物の1階部分に、デイサービス施設と併設して開設されたホームです。「その人らしい生活を営んでいただけるように私たちは利用者の皆様に寄り添うケアをしています」を理念として、一人ひとりの生活歴、性格、思いを十分把握し、本人が毎日笑って過ごすためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は常に、本人の立場に立って追求されています。実際、ケアは大変きめ細かく、とりわけ、一人ひとりの生活歴を活かした支援や夫々の能力に応じた役割、楽しみごとの支援、馴染みの関係に配慮した職員の入居者ごとの担当制、介護相談員の受け入れ等家族等との信頼関係構築及び重度化や終末期に向けた支援への取り組み等の他、ホームの内外は、新しく清潔感にあふれ、ぬくもりを感じさせる木を多用した床や壁面、植栽のある中庭、各所にバリアフリーが施されていると共に、畳の間や対面式のキッチン、居室にトイレを設置する等、季節感、生活感や五感刺激及び入居者の動線に配慮した機能的な設えの建物等さまざまな工夫や配慮、研究が見られます。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の明記や貼り出しにて共有している。	認知症になっても自分らしく生きることの支援を重視した理念とされています。	ミーティング等で話し合われる等共有の取り組みはなされていますので、今後は、日々のサービス提供場面を振り返り、理念がケアに反映されているかを確認されるよう期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事等、案内を頂き、参加させてもらっている。	地域の祭り等の行事に参加する他、自治会に加入し、回覧板や隣近所の人が花を持って来たりする間柄が作られる等交流が広がっています。	暮らしとはホームの中だけで完結するものではなく、地域との相互関係の下に成り立っていますので、今後さらに、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っていく努力を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会にて、グループホームの位置づけや、入居者様に対する援助方針等を説明した。また、運営推進会議にて、認知症に対するミニ勉強会もした。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様にできる限り出席して頂き、そこでの意見を元にスタッフ会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	会議は、家族、地域の代表者、行政職員等の参加の下、2ヶ月に1回定期的開催され、ホームの近況報告と今後の課題について話し合い、サービスの向上に活かされています。	サービス評価は、ホームの現状を明らかにし、次のステップに向けた目標を実現するために、運営推進会議のメンバーが協力者やモニター役となってくれることが重要ですので、今後はサービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みが望まれます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月介護相談員2名を受け入れ、意見を頂いています。	市外からの入居申し込みがあった時等の機会に市職員と相談する等連携に努められています。	市は、介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役ですから、入居者が地域で暮らし続けることの支援に向けて、今後より一層、積極的に市担当者への情報提供と共有を図り、協働して課題解決にあたられるよう期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各会議にて取り上げ、常に意識づけを行っています。最近では夜間に頻繁に起きられる利用者様についてのユニット会議をし、身体拘束についてスタッフ会議で再確認しました。玄関の鍵については、戸締り程度の鍵であり利用者様自ら鍵を開けて出られることもあるので見守る事で職員の意識を統一しています。	身体拘束をしないケアについてミーティング等で話し合い、職員の共有認識を図るようになっています。	安全への配慮から、日中玄関が施錠され、外出を知らせるようにチャイムが取り付けられていますが、今後は、安全面に配慮しながら入居者の自由な暮らしを支えるための工夫が期待されます。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職業倫理研修やスタッフ会議、ユニット会議にて取り上げ、その都度話し合い普段の言葉使いなども常に意識付けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーは2人おり、その研修において学んでいます。スタッフ会議、ユニット会議等で勉強会をし、すでに成年後見人制度を活用している方がおられるので、今後も支援する機会があれば活用していきたいと思います。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居されてからも、納得頂けるまで、説明させていただきます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	檀原市より、介護相談員2名が相談業務に入ってくれており、終了後計画作成者と意見交換を行っています。その内容は、スタッフ会議、リーダー会議等で報告しています。	介護相談員を受け入れる他、家族には訪問時等の機会を捉え、常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見等は、ミーティング等で検討し、反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や月1回のスタッフ会議において、提案を出して頂いています。それ以外にも随時意見は聞いています。	管理者を交え、随時、申し送りや月1回スタッフ会議、さらには、年3回施設長と直接話し合う機会を設け、意見を聞き反映されています。職員を担当制にする等入居者との馴染みの関係に配慮した勤務体制にされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績については、評価表にて評価し、向上心を持てるように個別にて話す機会を持っています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加したり、ユニット別会議にて介護の質を良くする為、話し合いを行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて交流しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様からゆっくりお話しをお伺いしたり、意向を伝えにくい場合は、ご家族様、後見人様からも情報を聞いて対応しています。また、不安な表情があれば、積極的に声をかけ、安心していただける様にしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂ける様、何度でも電話にてお話をさせて頂いたり、時間を設けて、ゆっくりと納得いくまで話をし、対応に努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームのみではなく、特別養護老人ホーム、居宅、ショートステイ、デイサービスも併設しているので、それぞれの事業所と連携を取りながら、対応しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から傾聴に努め、生活を共にしながら、入居者様からもいろいろな事を習わせて頂いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも連絡が出来る関係を作り、家族様の意見を聞き、共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人、民生委員様等、利用者様が大切に思われている人を把握し、職員同志も確認し合っています。	本人のこれまでの生活歴を把握し、友人等の訪問や一緒に食事に出かけられるよう支援されています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の性格を把握し、人間関係の調整役として、良い関係を築けるよう、会議等で討議しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為、退去された家族様には、時々電話をし、様子等を伺ったり、相談依頼があれば、入院先の病院に出向く事もあります。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時やケアプラン作成時に、聞き取りをさせて頂き、困難な場合は、家族様にもお尋ねして、スタッフ会議やユニット会議で情報を共有しています。	日々のかかわりの中で、声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接表を参考にスタッフ会議で検討。ケアプランの2週間評価にて見直しを行い、経過の把握が解かり易いようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにあげています。その人らしい生活をして頂けるように、スタッフ会議やユニット会議で再確認しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が活かされたものになるように、2週間評価、モニタリングを実施しています。	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意向を聞き、反映させる他、アセスメントや、日々の記録を基に職員間で、意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成されています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護経過メモ、個人ケース記録、ケアプラン行動実施評価、2週間評価、モニタリング、の記録の元に反映できるようにしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランにおいて、その都度ニーズをあげています。また、担当制を導入することより、個別ケアが充実できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の秋祭り、地域の文化祭等の案内を頂き、参加しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の希望をお伺いしながら必要な医療が適切に受けられるように支援させて頂いております。状況により、適宜苑より送迎し、受診もして頂いております。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的には、家族同行の受診となっておりますが、状況に応じて職員も同行されています。普段の様子等の情報を伝え、受診結果についても共有されています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特別養護老人ホームの看護職員と連携をとり、一人ひとりの体調管理に努めております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良の早い段階で、看護師、主治医と相談し、入院時の情報提供、退院時の情報交換などを速やかに行っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時又は既に入居された方々に対しては、医療連携加算や看取り加算等の説明をさせて頂き、同意を頂いております。	現在のところ実績はありませんが、希望があれば、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう随時意思を確認しながら取り組めるよう態勢は整えられています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修やスタッフ会議等にて、対応の訓練を行っています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、スタッフ会議等にて確認しています。	消防署の協力を得て年2回訓練(夜間を想定した訓練も含む)を実施されています。ホームの職員や同法人の職員の協力体制も確保されています。今後は、突発的な訓練の実施や地域の協力体制の構築等の実現に向けて検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーなどは特に気を付ける様に、スタッフ会議等でも職員に伝えていきます。	人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時も、さり気ないケアを心がけて対応されています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取り、寄り添う支援を心掛けています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、18名全員が充実した1日を過ごして頂けるよう、コミュニケーションを取っています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院がある入居者様には行って頂きます。日々着て頂く服装等も相談しながら決めたりしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のチェックをして頂いたり、調理方法などの話をしながら、食事が楽しく出来る様に支援し出来る事はして頂いています。	調理、盛り付け、配膳、後片付け等個々の能力に応じて職員と協働して作業をする等食事への関心を引き起こす工夫がなされています。	一部職員は弁当を持参し、サポートに徹し休憩時間に昼食を摂られています。ホームの特性を踏まえ、入居者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりへの取り組みについて検討されるよう期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日記録し、食欲のない方は、エンシュアや高カロリーゼリーなどで補っています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、かかさずさせて頂き、週1回の歯科医の先生による往診にて指導を頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導しています。なるべく綿の下着で過ごして頂けるように心掛けていますが、ADL低下によりリハビリパンツの方も多くなっています。	排泄チェック表を記録し、時間を見計らって誘導する等排泄パターンに応じて自立に向けた支援をされています。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ類等も本人に合わせて検討されています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事の工夫、運動、腹部マッサージ、内服薬の調整も行っています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後、毎日入浴の時間をとっております。毎日入浴を希望される方は、体調確認、バイタル測定後入浴して頂いています。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムにより、昼寝タイムを取られたり気持ちよく居室にて眠れるように配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員室内にいつでも処方箋と薬の説明書が置いてあり、薬シールや今まで処方された薬の記録も残してあります。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や仕事歴、生活歴を活かし、俳句や歌、踊りなど発表の場を設けたり、貼り出しさせて頂いています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コスモス見学、馬見公園緑化フェア、地域のイベント、買物、散歩等、ご希望によって戸外に出かけています。	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会としての散歩や外出等戸外で過ごす他、一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、買い物等に出かける支援もされています。今後は、普段行けないような場所へも出かけられるよう支援の実施に向けて検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時にお金をお渡しして、買物やパンの販売などに出かけています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、事務所より何度でも家族様に掛けて頂いており、手紙等も自由に出せるように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアは、座り心地の良い椅子を使用しています。窓の外には、花壇があり、季節の花を植えています。	建物はバリアフリーで、床や壁面はぬくもりを感じられるよう木が多用されており、リビングは、中庭を設け植栽を施すことで適度に光が差し込み明るく清潔感にあふれ、対面式キッチン等五感刺激や季節感にも配慮されている他、畳の間等入居者の馴染みのものを取り入れた設えにする等居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出口にベンチを置き、景色を見ながら日向ぼっこをしたり、リビングでは、気のあった方々同志の席を配慮しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使っていた家具等を持って来て頂いています。	各居室にはトイレが設置されている他、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの入居者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は自由に歩いて頂き、イベントの写真などを見たり、洗濯物をたたんだり、広いスペースを気持ちよく使って頂いています。施設の玄関にある喫茶店等も利用され、その都度話題を提供させていただいています。		